

2025年度 授業コード: 21108900

授業科目	*ヘルスアセスメント演習				実務家教員担当科目	○	
単位	1	履修	必修	開講年次	1	開講時期	後期
担当教員	長崎 恵美子/幸 史子/梶原 江美/隅田 由加里/中島 紀江/西田 彩子						
授業概要	<p>フィジカルアセスメントに必要な「呼吸器系」、「循環器系」及び「消化器系」、「感覚器系」、「神経系」、「骨格系」と各系統的に具体的に学修し、安全・安楽で倫理的配慮を伴ったフィジカルイグザミネーション技術と観察結果を総合的に捉えたアセスメント、そこから対象に必要な援助を導き出す実践能力を身につける。特に、スクリーニングの基本である「バイタルサイン測定技術」については、看護の基本技術としての確実性を目指す。演習を通して、学生同士で正常な状態を観察後、シミュレーターを用いて異常な状態の観察を行い、その違いについて判断する能力を養う。</p> <p>実務家教員として、病院での複数診療科における長年の臨床経験と大学での看護学教育の経験を活かして、看護における「ヘルスアセスメント」することの目的や方法、意義について範囲を示し、看護の対象である生活者の身体的・心理的・社会的状態を把握するために必要な観察・アセスメント能力やフィジカルイグザミネーション技術について概説し、技術を具体的に提示する。</p> <p>この科目は、基本的に1回あたり2コマで実施する。</p>						
授業形態	対面授業			授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習については、グループでの行動とし、意見交換の時間を適宜設ける。 ・classroomを活用した連絡や課題の提供、実技練習に必要な看護技術動画の視聴 		
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントの目的や方法、意義について説明することができる。 2. ヘルスアセスメントに必要な知識について説明できる。 3. バイタルサインを正しい方法で測定できる。 4. 各系統における問診とフィジカルイグザミネーションの技術を正確かつ安全に実施できる。 5. 得られた観察結果から、対象の健康状態を判断できる。 6. 明らかにした対象の健康状態について、正確に記録できる。 7. 援助者としてふさわしい態度や姿勢で、倫理的配慮を考えながら対象に接することができる。 8. 事前学習や課題、自己練習に積極的に取り組み、学生同士での意見交換を通して学びを深めることができる。 						
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントの目的や方法、意義についての的確に説明することができる。 2. ヘルスアセスメントに必要な知識についての的確に説明できる。 3. バイタルサインを対象の状態に合わせて工夫しながら、正しい方法で測定できる。 4. 各系統における問診とフィジカルイグザミネーションの技術を対象に分かりやすく説明し、同意を得て、正確かつ安全に実施できる。 5. 得られた観察結果を多角的に捉えて、対象の健康状態を判断できる。その結果をもとに、対象に必要な看護援助の方向性を導くことができる。 6. 明らかにした対象の健康状態について、正確にかつ論理的に記録できる。 7. 援助者としてふさわしい態度や姿勢、倫理的配慮を用いて対象に接することができる。 						

8. 事前学習や課題、自己練習に主体的に取り組み、学生同士での意見交換を通して学びを深めることができる。									
評価方法・評価割合									
評価方法		評価割合（数値）				備考			
試験		60							
小テスト		10				0			
レポート		10				0			
発表（口頭、プレゼンテーション）		20				0			
レポート外の提出物									
その他									
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング									
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	ナンバリング	NU11206J
学習課題（予習・復習）									1 回の目安時間（時間）
予習：配布の事前課題、基礎看護技術 I 該当部分の通読、形態機能学の復習、動画視聴 復習：講義内容の整理、まとめノートの活用、事後課題、演習の要点を整理、自己練習									1
授業計画									
第 1 回	【本科目のガイダンス】 【ヘルスアセスメント概説】 ・ヘルスアセスメントの目的と重要性 ・フィジカルアセスメントの基本手技 [講義：長崎恵美子]								
第 2 回	【バイタルサイン測定】 ・バイタルサイン（体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態）を観察する意義 ・バイタルサインのアセスメントの視点 ・バイタルサイン測定方法の留意点と根拠 [講義：長崎恵美子]								
第 3 回	第 3 回と第 4 回は連続して行う 【バイタルサイン測定】 ・体温・脈拍・呼吸の観察 ・血圧測定（触診法と聴診法） ・パルスオキシメーターによる経皮的動脈血酸素飽和度（SpO ₂ ）測定 ・バイタルサイン測定結果のアセスメント [演習：長崎恵美子、梶原江美、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]								
第 4 回	第 3 回と第 4 回は連続して行う 【バイタルサイン測定】 ・体温・脈拍・呼吸の観察 ・血圧測定（触診法と聴診法） ・パルスオキシメーターによる経皮的動脈血酸素飽和度（SpO ₂ ）測定								

	<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン測定結果のアセスメント ・演習のまとめ <p>[演習：長崎恵美子、梶原江美、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>
第5回	<p>【骨格系/神経系のアセスメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨格系/神経系の基礎知識 ・骨格系/神経系のフィジカルアセスメントの意義 ・骨格系/神経系のアセスメントの視点と方法 <p>[講義：長崎恵美子]</p>
第6回	<p>【消化器系/感覚器系のアセスメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消化器系/感覚器系の基礎知識 ・消化器系/感覚器系のフィジカルアセスメントの意義 ・消化器系/感覚器系のアセスメントの視点と方法 <p>[講義：長崎恵美子]</p>
第7回	<p>第7回と第8回は連続して行う</p> <p>【骨格系/神経系/消化器系/感覚器系のアセスメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨格系/神経系/消化器系/感覚器系の問診・視診 ・関節可動域（ROM）測定 ・徒手筋力テスト（MMT） ・平衡機能、小脳機能検査 ・膝蓋腱反射 ・腹部の触診、聴診 ・瞳孔および対光反射 ・音叉による聴力検査（リンネ・ウェーバーテスト） ・骨格系/神経系/消化器系/感覚器系の診査結果のアセスメント <p>[演習：長崎恵美子、梶原江美、金山正子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>
第8回	<p>第7回と第8回は連続して行う</p> <p>【骨格系/神経系/消化器系/感覚器系のアセスメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨格系/神経系/消化器系/感覚器系の問診・視診 ・関節可動域（ROM）測定 ・徒手筋力テスト（MMT） ・平衡機能、小脳機能検査 ・膝蓋腱反射 ・腹部の触診、聴診 ・瞳孔および対光反射 ・音叉による聴力検査（リンネ・ウェーバーテスト） ・骨格系/神経系/消化器系/感覚器系の診査結果のアセスメント ・演習のまとめ <p>[演習：長崎恵美子、梶原江美、金山正子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>
第9回	<p>第9回と第10回は連続して行う</p>

	<p>【呼吸器系/循環器系のアセスメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系/循環器系の基礎知識 ・呼吸器系/循環器系のフィジカルアセスメントの意義 ・呼吸器系/循環器系のアセスメントの視点と方法 <p>[講義：長崎恵美子、西田彩子]</p>
第10回	<p>第9回と第10回は連続して行う</p> <p>【呼吸器系/循環器系のアセスメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系/循環器系の基礎知識 ・呼吸器系/循環器系のフィジカルアセスメントの意義 ・呼吸器系/循環器系のアセスメントの視点と方法 <p>[講義：長崎恵美子、西田彩子]</p>
第11回	<p>第11回と第12回は連続して行う</p> <p>【呼吸器系/循環器系のアセスメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系/循環器系の問診・視診 ・肋骨・肋間の同定 ・呼吸音の聴診 ・全身の動脈触知 ・浮腫の観察 ・正常心音（I・II音）の聴診 ・シミュレーターによる異常呼吸音と過剰心音の聴診 ・呼吸器系/循環器系の診査結果のアセスメント <p>[演習：長崎恵美子、梶原江美、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>
第12回	<p>第11回と第12回は連続して行う</p> <p>【呼吸器系/循環器系のアセスメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系/循環器系の問診・視診 ・肋骨・肋間の同定 ・呼吸音の聴診 ・全身の動脈触知 ・浮腫の観察 ・正常心音（I・II音）の聴診 ・シミュレーターによる異常呼吸音と過剰心音の聴診 ・呼吸器系/循環器系の診査結果のアセスメント ・演習のまとめ <p>[演習：長崎恵美子、梶原江美、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>
第13回	<p>第13回と第14回は連続して行う。状況に応じて開始時間をずらす場合がある</p> <p>【ヘルスアセスメント演習実技試験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識・技術を活用し、バイタルサイン測定の実施および記録を行う ・課題学習：看護師国家試験の出題や疑似問題等を通して、既習の知識の要点を整理する <p>[演習：長崎恵美子、梶原江美、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>

第14回	<p>第13回と第14回は連続して行う。状況に応じて開始時間をずらす場合がある</p> <p>【ヘルスアセスメント演習実技試験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識・技術を活用し、バイタルサイン測定の実施および記録を行う ・課題学習：看護師国家試験の出題や疑似問題等を通して、既習の知識の要点を整理する <p>[演習：長崎恵美子、梶原江美、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>
第15回	<p>【まとめ：知識・技術の整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスアセスメント演習で学んだ内容について整理する <p>[講義：長崎恵美子]</p>
テキスト	<p>山内豊明 著：フィジカルアセスメントガイドブックー目と手と耳でここまでわかる 医学書院 2015</p> <p>竹尾恵子 監修：看護技術プラクティス【第4版 動画付き】 学研メディカル秀潤社 2019</p> <p>坂井建雄、岡田隆夫 著：系統看護学講座 専門基礎分野① 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 2019</p> <p>茂野香おる、他 著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 第17版 医学書院 2019</p> <p>医療情報科学研究所 編：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア 2019</p> <p>橋本忠幸 著：だけでいい！フィジカルアセスメント：外来でも病棟でもこの1冊 メディカ出版 2023</p> <p>藤崎郁 著：フィジカルアセスメント完全ガイド 第3版 学研メディカル秀潤社 2017</p>
参考図書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介	<p>小テストは採点后、次回の講義で解説または提示する。</p> <p>課題レポートや講義に関する質問は、コメントをつけて返却、または、次回の講義内で伝える。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>「ヘルスアセスメント演習」の授業では、1年次前期から看護を学ぶための基礎として学習してきた「看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ」の知識が必要不可欠です。また、看護技術論演習で習得したコミュニケーションや感染予防に関する知識・技術を応用していきます。</p> <p>本授業では、看護の対象を観察するために必要なバイタルサイン測定技術や各系統別のフィジカルアセスメント技術の習得を目指します。そのためには、テキスト以外の参考図書や動画を活用し、予習・復習に加えて、確実な内容での自己練習の積み重ねが必須です。図書館でテキスト以外の提示された参考文献を調べて、理解の助けとして活用していきましょう。講義や演習時には、自分なりの理解の補足を資料に記入するなどの努力が、のちに実を結びます。</p> <p>看護実践者を目指す者として主体的に学習し、日々自己の知識技術を振り返り、本科目で学ぶ知識の定着化と基本技術の習熟に努力しましょう。</p>
学生へのメッセージ・コメント	

